聴覚障害についての情報紙

# でんでんくん

でんでんくん

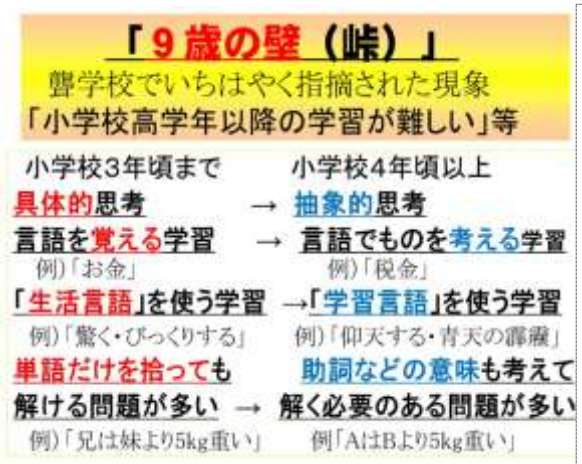
きぬたくん

つちこちゃん

№6　令和３年１月２１日
発行：きこえとことば支援センター
（秋田県立聴覚支援学校内）

## 研修会報告～脇中起余子先生のご講演から

１１月６日（金）に、東北地区聾学校研究大会青森大会がオンラインで開催されました。その時に行われた筑波技術大学の脇中起余子先生がご講演の中で、聴覚障害児の“９歳の壁”と“学習言語の習得の難しさ”について触れられていましたので、スライドの一部をご紹介します。なお、もっと詳しくお知りになりたい方は、きこえとことば支援センターまでご連絡ください。




（説明の一部）
学習言語の世界は、「助詞などを手がかりに意味を正確に把握する力が必要な世界である」と述べられています。聴児にとって何となく聞いた覚えのある未知語と、難聴児にとって聞いたことのない（曖昧に聞いても残らない）未知語の学習の定着は、理解と定着の時間が異なるということがあります。また、助詞の働きなどを意識して学んで身につけていくことが、学力の向上のためにも大切になります。
（例）「全部解けなかった」
「全部は解けなかった」　意味の違いの理解

脇中先生は、その著書、『聴覚障害教育これまでとこれから』と『９歳の壁を越えるために』の中で、聴覚障害児によく見られるつまずき、「９歳の壁」とその克服の方向性、家庭や学校で大切にしてほしいことなどについて説明されています。

## 難聴理解学習の紹介

小・中学校に在籍する難聴のお子さんは、難聴の程度が軽かったり、補聴器機をうまく活用できていたりすると、聞こえにくさやその困り感に気付いてもらいにくい場合があります。そのため、本校では難聴理解の大切さを知ってもらう授業を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新年度早々の実施が難しく、状況を見ながら日時を調整して行ってきましたが、中には、難聴の新入生を迎えるにあたって、入学前から問い合わせのあった学校もいくつかありました。また、年度初めは、職員研修のみの依頼であったものの、難聴のお子さんの学校生活の様子から、保護者と相談し、改めてその必要性を考え、年度途中で再度依頼のあった学校もありました。

この学習では、在籍する子どもたちの難聴理解だけではなく、難聴児の自己理解にもつながるように、担任の先生と相談しながら進めています。毎日の子どもたちの様子を見ながら、必要に応じて実施していくことが大切です。

| 難聴理解のための授業・研修 | | |
|---|---|---|
| | 児童生徒向け | 職員向け（セミナー内含む） |
| 小学校 | １５校 | １２校 |
| 中学校 | １校 | ２校 |

令和２年１２月現在

## 北の交流会を終えて

令和２年１１月２４日（火）、北秋田市交流センターを会場に、第三回「北の交流会」を実施しました。県北地区の難聴学級などに在籍している児童５名の他、保護者、担任の先生にも参加していただき、場を盛り上げていただきました。

自己紹介の場面では、久しぶりに会う友だちや初めて会う友だちを前に少々かたい表情だったのですが、「親子対抗風船リレー」や、２チームに別れてゴールを競い合った、「○×クイズレース」を行ううちに、持ち前のいきいきした言動を見ることができました。「親子対抗風船リレー」は、小差で子どもチームが勝利。「○×クイズ」では、自分のことを知ってもらえるような問題を事前に考え、準備してくれました。

また、保護者の情報交換会では、子どもたちの近況報告などが行われました。高学年の保護者の方のお話が、自然とアドバイスになったりするような場面もあり、短時間ではありましたが、よい機会になったと思います。

同じ障害を持つ仲間との出会い、交流の機会は、子どもたちだけでなく保護者の方にとっても大事な時間となっています。来年度もこのような交流会を継続していきたいと思います。

## 先輩と語る会を終えて

令和２年１２月１１日（金）、本校会議室において「先輩と語る会」が開催されました。講師は、平成２９年度に高等部専攻科情報デザイン科を修了し、「株式会社コーセー」に入社、現在は経理グループで活躍している、赤坂氏です。「専攻科について」「就活について」「仕事について」など、スライドを使って分かりやすくお話していただきました。校外から、中高生、保護者、担任の先生６名が参加しました。感想を一部ご紹介します。

【生徒から】

・自分の障害を具体的に相手に説明することで、相手は理解してくれて、コミュニケーションのとき、配慮してくれる。自分のことを自分で伝えることが大事でお互い安心できると感じた。

・「失敗から学ぶ」ということも大事だと思った。以前実習で失敗して、それで終わることがあったので、その原因も考えられようにがんばりたい。

【保護者から】

・自らの体験を通して得たこと、学んだことが伝わった。後輩にとっても有り難いアドバイスだと思う。

・挨拶や体力づくり、敬語や、自分から聞く習慣をつけることは、今からでも取り組みたいことである。

・赤坂さんの生活や進路の話を聞いて、我が子もこういうときが来るのだなと思った。……改めて先輩や同じ悩みをもつ方の話を聞いて、相談に乗っていただくことの大切さを知った。

きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090－8784－6302
〒010－1409　秋田市南ケ丘一丁目１番１号
【聴覚支援学校】TEL：018-889-8572　FAX：018-889-8575
E-mail：chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp